

バードリサーチ ニュース

2005年8月号 Vol.2 No.8

2005. 8. 17.

Photo by Uchida Hiroshi



活動報告

バードリサーチ研究集会(2005)報告

東京都日野市にある多摩平の森ふれあい館で8月6日に、バードリサーチ研究集会を開催しました。とても暑い日でしたが、34名の方が参加してくださいました。ありがとうございます。

バードリサーチと皆さんとのやり取りは、ホームページやメールがほとんどです。ですから、実際にお目にかかり、直接お話ができたのはとても嬉しく、貴重な一日でした。



研究発表会の様子。きれいな会場でした。

2004年度のバードリサーチの活動報告の後、会員の方から研究発表をしていただきました。

渡良瀬遊水地におけるクイナ類の生息状況 平野敏明さん(バードリサーチ)

鳴き声再生法を使って、広大な渡良瀬遊水地でクイナ類の分布と個体数の調査を行なったことの発表でした。分布は植生や湿地の水位などの条件によって決まってくるようです。会場ではヒメクイナの鳴き声も再生されました。音声の記憶・記録に自信がない私には難しそうな調査でした。

牛舎でコロニー営巣するツバメの生活 藤田剛さん(東京大学)

巣の空間パターンを解析すると、ツバメが隣巣から見えない場所を選好して営巣していることがわかったという発表でした。牛舎の構造がこの条件にうまく合っているようです。会場からは、「種内託卵」や「子殺し」についての質問がありました。画面を飾る藤田さんのツバメの絵が、ほんわかとした雰囲気を醸し出していました。

東京湾コロニーにおけるカワウの食性 戸井田伸一さん(神奈川県水産課)

戸井田さんは、私たちがカワウのヒナに標識している傍らで、いつも黙々と地面に落ちている魚を調べています。発表は、カワウが吐き戻した魚の種構成でした。魚類42種と甲殻類2種が確認され、春の東京湾周辺でのカワウの食性は、カタクチイシ、ボラ、フナ類の3種が主体のようです。

あるゴイサギの採食日記 遠藤菜緒子さん(立教大学)

ゴイサギの採食場所利用について ①毎日同じ場所を使うのか ②どのくらいの範囲を利用するのか ③採食場所をどうやって探すのか ④どのような場所を選ぶのかという疑問を解くために、繁殖期のゴイサギに発信機を装着して約3ヶ月間追い続けた調査の発表でした。追跡結果を地図に示し、ゴイサギの採食場所選択の行動や耕作との関係など、1羽の個体を追うことから、多くのことがわかるようです。

ツミの周辺で繁殖しなくなったオナガたち 植田睦之さん(バードリサーチ)

1990年代前半に多く観察されていたツミの巣の周辺で繁殖していたオナガが、10年後には見られなくなったが、その原因は、カラス類の増加によるツミの防衛行動の変化ではないかという発表でした。「風が吹くと桶屋が儲かる」には、ちゃんと理由があるのですね。

研究集会の発表要旨はホームページからご覧になれます。
http://www.bird-research.jp/1_ronbun/2005_birdresearch.html

ビデオ上映「渡良瀬遊水地のツバメ類のねぐら入り」

柴田佳秀さんの解説付きで、ツバメとショウドウツバメの大群がねぐら入りする様子を映した、迫力ある映像を上映していただきました。渡良瀬でのツバメのねぐら入りのピークは9月にあるそうです。できたらその場に身を置いて、景色全部を目と耳と匂いで感じたい、そんな気にさせられました。

バードベースの使い方講習会 神山和夫さん(バードリサーチ)

調査データの共有の可能性と課題点を整理し、パソコン上での使い方を具体的に説明していただきました。その後、参加者のみなさんにも操作の体験をしていただきました。

研究集会後、多摩川でエクスカージョンを行いました。台風の影響で大きなツバメのねぐらが崩壊し、迫力のある群れでのねぐら入りは観察できませんでした。それぞれに楽しんでいただけよう。【加藤ななえ】



集会後のエクスカージョン。多摩川でツバメのねぐらを観察しました。